

## はじめに

里塚斎場は、令和6年（2024年）に築40年を迎え、老朽化が進んでいます。また、市内の火葬件数は、令和36年（2054年）まで増加することが見込まれます。札幌市では、市民の火葬需要に安定的に応えるため、里塚斎場の再整備について検討しています。

## 1 市内の火葬場について

## ●現在の状況

市内中心部や豊平川を挟んで東南に位置する里塚斎場（昭和59年（1984年）供用開始）、北西に位置する山口斎場（平成18年（2006年）供用開始）の2斎場体制で、市内の火葬需要に対応しています。

## ●立地の経緯

市内の一定の面積を有する未利用地について、切土や盛土を必要としない地形・地勢であることや、主搬入路が住宅街を通らないこと等から総合的に評価し、里塚を火葬場の最適地として選定した経緯があります。山口も同様の手法で、市内の候補地から最適地として選定しています。

## ○里塚斎場建設時からの地域の皆様の想い

里塚斎場の建設にあたり、周辺地域の清田地区町内会連合会から当時の市長へ、右の14項目からなる要望書が提出されました。

この要望書は、市がこれらの要望に善処することを条件に、斎場建設を容認する内容ですが、現在も実現に至っていない要望事項が残されております。



- ①清田分区の確立計画
- ②地下鉄東豊線の早期完成促進
- ③羊ヶ丘通、北野通の整備促進
- ④清田地区上下水道整備の早期実現
- ⑤東部開発事業の促進
- ⑥区民センター及び体育館の建設
- ⑦総合運動公園の建設
- ⑧西山造林地内スキー場及びキャンプ場の建設
- ⑨公立大学等の誘致
- ⑩老人娯楽施設の建設
- ⑪球技広場の建設
- ⑫将来計画に基づく市街化区域の編入促進
- ⑬厚別川周辺の計画整備
- ⑭区画整理事業の計画促進

## 2 火葬場の課題について

## ●施設の老朽化

里塚斎場の火葬炉については、大規模改修を行い、平成21年（2009年）に供用開始していますが、令和16年（2034年）にはその寿命とされる25年が経過します。また、山口斎場は、令和18年～19年（2036年～2037年）頃に全面改修（全面休場）を予定しています。

## ●火葬能力の不足

火葬能力の年間上限は、里塚斎場が18,000件、山口斎場が21,750件です。令和6年度（2024年度）の市内火葬件数は約26,400件のため、山口斎場の全面改修（全面休場）を想定した場合、里塚斎場だけで市内の火葬需要に対応することは困難です。

なお、市内火葬件数は当面増加傾向にあり、令和36年（2054年）には最大値の約32,800件に達する見込みです。

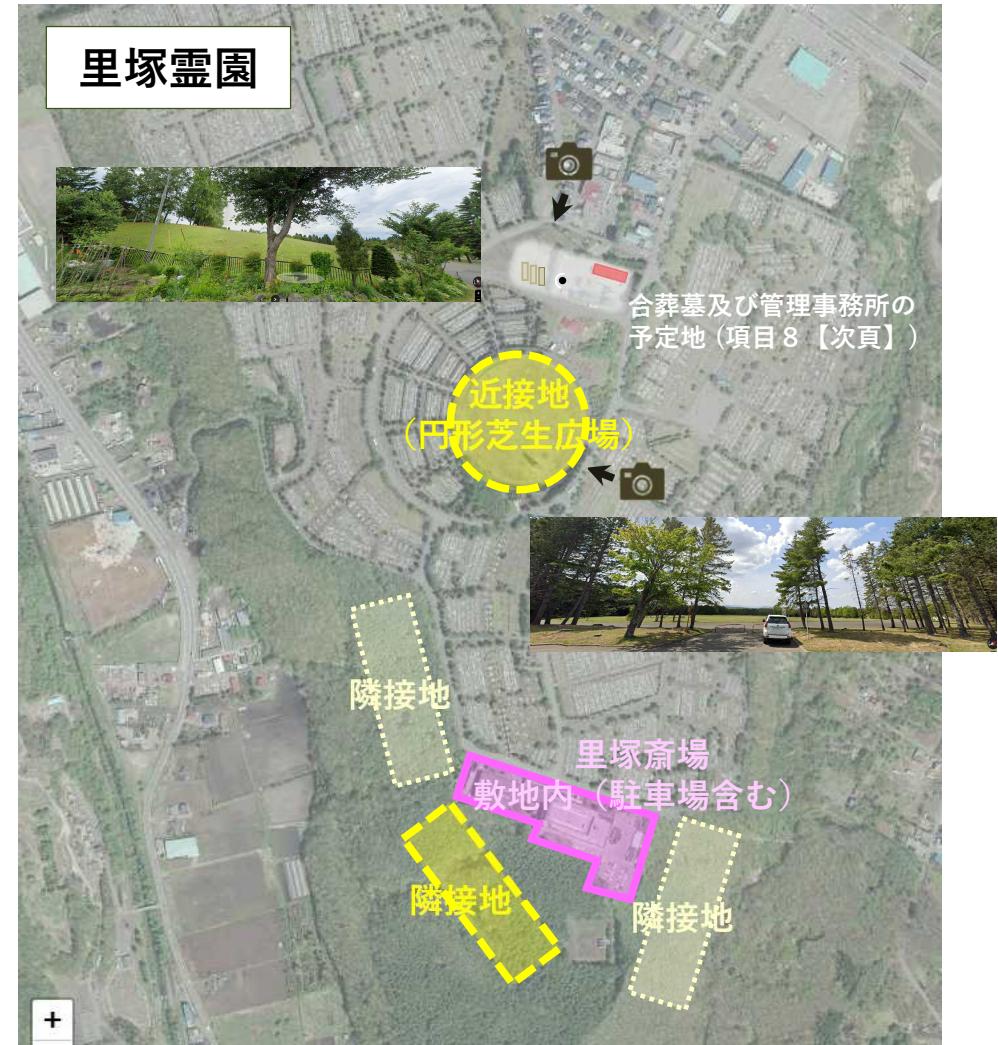
## 3 再整備について

札幌市としては、市民の利便性や道路網の整備状況、災害時のリスク分散等の観点から、市内中心部や豊平川を挟んで対極にある里塚・山口の2斎場の配置が最適と考えていることから、里塚で新斎場を整備する必要があると考えています。

山口が全面改修の間、里塚の現斎場と新斎場で対応し、全面改修の終了後、現斎場は廃止する予定です。

## 4 新斎場の整備候補地について

整備候補地の選定に当たっては、里塚斎場の敷地内、隣接地、近接地に分けて、比較検討を行っています。



# 里塚斎場の再整備の検討内容 2/2

## 5 整備候補地の比較検討について

	敷地内 (現斎場の建替え又は増改築)	隣接地 (現斎場の東西及び後背地)	近接地 (円形芝生広場)
地形図			
③			
④			
①			
②			
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現斎場と同位置であり、周辺住環境への影響は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現斎場と隣接しており、周辺住環境への影響は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平坦な地形のため、盛土で造成する必要がなく、<b>災害リスクが低い</b>。</li> <li>●現斎場から離れているため、工事中でも<b>会葬者の安全性を維持</b>し、駐車スペースを十分に確保できる。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工事車両と一般車両の動線が錯綜し、<b>会葬者の安全確保が困難</b>である。</li> <li>●工事中、駐車場内に施設を仮設するため、駐車スペースが不足し、<b>現斎場の運営に支障</b>が生じる。</li> <li>●敷地が限られているため、設計の自由度が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●傾斜地を<b>盛土で造成する必要</b>があり、<b>地盤沈下や土砂災害など様々な災害リスク</b>が想定される。</li> <li>●現斎場の近くで工事車両が往来するため、<b>会葬者の安全確保が困難</b>である。</li> <li>●大量の樹木を伐採する必要があり、自然環境への影響が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民地と距離が近くなるため、工事中の騒音や振動、供用開始後の景観等の十分な配慮が必要となる。</li> </ul>

災害リスクの低減や会葬者の安全確保を前提として比較検討した結果、近接地の**円形芝生広場**が新斎場の整備候補地として**最適**であると考えています。

## 6 里塚斎場（現斎場と新斎場）と山口斎場の中長期整備スケジュール



## 7 周辺住環境への配慮について

### ●景観等への配慮

植樹などによる目隠し等を検討するとともに、工事中の騒音などに配慮します。

### ●ばい煙等の環境対策の強化

現状の火葬炉よりもダイオキシン等の抑制効果の高い設備を導入します。  
LNG（液化天然ガス）などの、よりクリーンなエネルギーの利用を検討します。

### ●周辺道路への影響の抑制

#### ・火葬件数の平準化

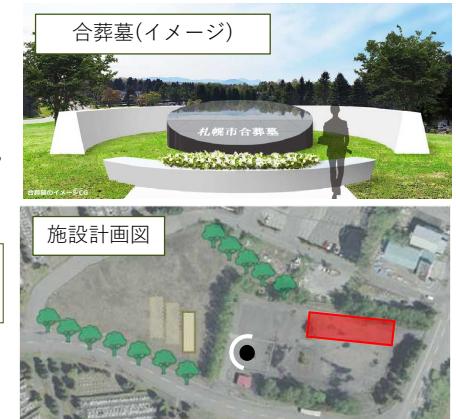
令和5年度（2023年度）に導入した予約システム、令和8年度（2026年度）から実施予定の友引開場により、火葬件数が平準化され、友引翌日の混雑緩和が進む見込みです。

#### ・山口斎場の大規模改修手法の検討

山口斎場について、全面休場せずに改修できる方法、工期を短縮する方法も併せて検討していきます。

## 8 合葬墓の新設・里塚靈園管理事務所の建替えについて

- 平岸靈園に設置している合葬墓（複数の遺骨を一緒に埋蔵する形式のお墓）について  
は、**近年需要が高まっており**、令和9年度（2027年度）には埋蔵可能容量が限界を迎えるため、**合葬墓の新設が必要な状況**です。
- 里塚靈園内への合葬墓新設**と、老朽化している**管理事務所の建替え**を**同時に**行う方向で検討



- モニュメント
- 管理事務所
- 合葬墓